

文部科学大臣
あべ 俊子 様

一般社団法人 日本看護系大学協議会
代表理事 堀内 成子



要望書

日頃より看護学教育について多大なご理解とご支援をいただき感謝申し上げます。

一般社団法人日本看護系大学協議会（JANPU）は、看護学教育を実施している全国304大学が会員校となっています。本協議会の目的は、看護学高等教育機関相互の連携と協力によって、看護学教育の充実・発展及び学術研究の水準の向上を図り、もって人々の健康と福祉へ貢献することです。重点事業として、参加型臨地実習の実現のための実習前共用試験実施に向けた検討、高度実践看護師グランドデザインの提案に向けた検討を進めています。

2017年に文部科学省から発出された看護学教育モデル・コア・カリキュラムは、学修者主体のコンピテンシー基盤型教育への転換をはかる改訂が始まりました。また、JANPUで実施した臨地実習に関する調査では、看護技術実施機会が著しく制約を受けていることが分かりました。臨地実習の機会を保障し、看護学生の看護実践能力を向上させること、その実践能力を大学として保証することが重要になります。そのためには、コンピテンシー基盤型教育に基づいた看護実践能力評価基準を策定し、この基準への到達状況を測るための試験問題作成・評価システムを構築することが必要です。これを前提として、医療チームの一員として機能する参加型臨地実習が可能となります。

2025年3月、看護学教育モデル・コア・カリキュラムが改訂されました。看護実践能力の評価基準が明確化されたことによって、卒業後の臨床判断能力や看護実践能力の向上にも寄与し、看護の質向上、医療全体の質向上、国民の健康に一層貢献できると考えます。また、試験問題作成・評価システムの構築は、コンピュータ利用による保健師助産師看護師国家試験を可能とし、看護学生が不利益なく受験できることにも寄与できると考えます。

以上より、次の事項を要望いたします。

要望事項

- 看護学生の参加型臨地実習を可能にするため、看護実践能力評価基準に基づく評価方法の検討、AIを用いた持続可能な試験問題作成・評価システムの構築への支援
- MEXCBT（文部科学省CBTシステム）の継続的利用および高等教育仕様への対応等の実現に向けた支援

要望事項の説明

近年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大による看護学生の臨地実習の制限という事態を受け、本協議会では、従来の臨地実習から一歩進めた参加型臨地実習を実現するための検討を始めました。参加型臨地実習とは「臨地の指導者による指導の下、医療チームの一員として、一定の役割と責任を担いながら知識・思考法・スキル・態度を学ぶ」と想定しています。2023年1月～3月に行った会員校調査「看護学教育における臨地実習に関するアンケート」（回収率 72.5%）では、参加型臨地実習の必要性について、92.5%の賛同が得られております。

参加型臨地実習の実現に向けては、看護実践能力評価として、ITを用いた実習前知識試験（Computer Based Testing : CBT）と客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination : OSCE）の開発・試行に取り組むことが重要です。特に、実習前の知識の習得状況を示す CBT は、社会・臨地側に対して実習に臨む看護学生に一定の能力があることを示す試験であり、看護学生がさらなる役割と責任を担いながら看護ケアを実施する臨地実習を実現するには必須のものです。これらは、医学では制度化されましたが、看護学ではまだ制度化には至らず、導入している大学は多くありません。

本協議会は、令和5（2023）年度先導的の大学改革推進委託事業「看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた調査研究」を受託し、Chat型AIを活用したインタビューによる大規模調査及び専門家会議を経て、「2040年以降の社会を想定した看護職、次世代を担う看護実践能力、そのために必要な教育内容」を明らかとし、次期「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」改訂案を報告しました。今後は、「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」で明示された資質能力に基づき、CBTの問題作成・評価システムを構築し、その一貫性・信頼性・妥当性の検証を含めた持続可能なシステムに発展させることが必要です。これは、看護師国家試験のAIによる問題作成にも寄与するものと考えています。

2023年度までに、CBT試行版（問題プール：約300問）の実証事業として、文部科学省のCBTシステム（MEXCBT）を利用させていただくことができ、26校の会員校で実施しています。しかし、CBT事業を継続するためには、AIを用いた問題作成・評価システムの構築に加えて、MEXCBTの継続的利用と高等教育仕様への対応が必要となります。

以上より、令和5年度受託の調査研究事業を発展させ、AIを用いた看護実践能力評価基準に基づく一貫性・信頼性・妥当性の検証を含めた、持続可能な問題作成・評価システムの構築を可能にするための財政的支援と、CBTを実施するためのシステムとして、MEXCBT（文部科学省CBTシステム）の継続的利用および高等教育仕様への対応等の実現に向けた支援を要望します。